

令和5年3月23日

甲府市議会議長 興 石 修 様

環境水道委員長 深 沢 健 吾

所 管 事 務 調 査 報 告 書

環境水道委員会におきまして、甲府市議会基本条例第18条第4項に基づき、所管事務調査及び政策研究のテーマを定め、調査・研究を進めてまいりました経過と結果について御報告いたします。

令和4年7月24日の委員会におきまして、SDGsへの貢献や本市が目指すゼロカーボンシティの実現に不可欠である「地球温暖化対策」を昨年度に引き続き調査・研究テーマとして、とりわけ今年度におきましては、「再生可能エネルギー」に焦点を当て調査・研究することとし、再生可能エネルギーには地熱や風力等の様々なものがある中で、甲府市の日照時間が長いという地域特性を生かすことができる太陽光発電に着目するべきとの意見に集約いたしました。

同年8月22日に甲府市米倉山の太陽光発電所、電力貯蔵技術研究サイトと国立大学法人山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センターへの視察を実施し、天候、昼夜により発電量が大きく変動する太陽光発電の電力を水素に変換することで安定した電力供給を実現し、太陽光発電のポテンシャルを最大限活用することのできる先進技術についての知見を得たところであります。

同年10月5日から7日までの日程で、京都府京都市、愛知県豊田市への行政視察を実施し、公共施設の敷地を利用したメガソーラーの設置、太陽光パネル設置推進のための様々な支援制度や中小企業を対象とした相談体制の整備などについて調査を行いました。

同年11月21日の委員会におきまして、視察内容の調査結果を踏まえ委員間討議を行う中で、「市内に電力貯蔵技術研究サイトと水素・燃料電池ナノ材料研究センターという研究機関があることは甲府市の強みである」や「脱炭素へのひとつの切り口として水素という新エネルギーについて、中核市である甲府市がどこまでできるか」等の太陽光発電と水素を組み合わせた脱炭素化についての調査・研究を深めていく必要があるとの意見があり、次回、水素を組み合わせた太陽光発電の活用における先進事例を学ぶ機会を設け、調査・研究を進めることといたしました。

その後、令和5年1月25日の委員会におきまして、太陽光発電の電力により生成された水素の活用について先進的な技術を有する企業に参考人として出席していただき、脱炭素まちづくり構想や新たなまちづくりを進めるに当たっての有用性について御教授いただき、本市において、今後進めていくリニア駅周辺整備を含めた「甲府のまちづくり」における水素の活用に大きな可能性を感じたところであります。

本市には、太陽光発電、水素に関する先進的な研究施設があり、今後も様々な企業やプロジェクトグループが入居する次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジの運用が予定されておりますことから、環境水道委員会といたしましては、産学官の連携を含めた太陽光発電の活用に向けた取組の検討や、リニア駅周辺整備においては、太陽光発電と水素の運搬インフラの整備による再生可能エネルギーの地産地消を実現し、災害時にも自立したエネルギー供給が可能な強靱性を持った、世界に発信できる、再生可能エネルギー活用のリーディングケースとなるよう進める必要があると考えたところであります。

以上、報告といたします。